

平成 22年 6月 4日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19530847

研究課題名 (和文) 英国の市民性教育等の教科と日本の家庭科における環境教育の比較分析

研究課題名 (英文) Comparative Study of Environmental Education in Home Economics between U.K. and Japan

研究代表者

井元 りえ (IMOTO RIE)

福岡工業大学・社会環境学部・教授

研究者番号：30412612

研究成果の概要 (和文)：本研究は、英国の「デザインとテクノロジー」及び「PSHE と市民性教育」における環境教育の学習内容と学習方法を詳細に分析し、日本の小・中・高の家庭科における「消費生活と環境」の領域の学習内容と学習方法と比較することを通して、今後の日本の家庭科教育における環境教育のあり方を考察し、提案することを目的とした。文献調査、英国の学校の現地調査により、日本に参考となる学習内容と方法が明らかとなった。

研究成果の概要 (英文)：The purpose of this study is to propose new aspects of environmental education in Home Economics in school education in Japan through analysis of study contents and methods in 'Design and Technology' and 'PSHE and Citizenship' in U.K. Based on bibliographic survey and field investigation, unique study contents and methods in U.K. were identified.

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	100,000	30,000	130,000
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：各教科の教育 (家庭)、環境教育

1. 研究開始当初の背景

英国のナショナルカリキュラムは、1989年の導入以降、ほぼ5年に1度の改訂を行いながら施行されている。筆者はその変化を捉えながら研究を進めてきた。2002年4月からは、国立教育政策研究所の『家庭科のカリキュラムの改善に関する研究—諸外国の動向』の研究の中で、イギリスを担当し、家庭科の関連科目の教育制度、教育課程、家庭科の教育課程上の位置づけ、目標・内容構成等について明らかにし、2005年に報告書が出版された。こ

の研究では、ナショナルカリキュラムの2000年の改訂後までの家庭科関連科目の全体的な動向を明らかにしたが、特に、「消費生活と環境」に関連する部分についての主な結論は次の通りである。ナショナルカリキュラム全体において、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development)」が一つの重要目標となっている。「デザインとテクノロジー」においては、人間による資源を用いた技術による開発が環境、経済、社会に与える影響について理解させることを目的

としている。また、「PSHE」では、市民としての人間と、環境、経済、社会との関係について理解させることを目的としている。日本の家庭科では、学習内容が消費者としての生活の工夫にとどまっているが、家庭と社会を関連づけて考察する内容が求められることが明らかとなった。

これまでに家庭科教育との関連で「PSHE と市民性教育」を分析した研究はあるが、2004年のナショナルカリキュラムの改訂で「市民性教育」が必修となってから、日本の家庭科に該当する部分が明確にされていない。2005年から任命された国立教育政策研究所の研究においても、多くの研究者と議論する中で、「PSHE と市民性教育」の内容が、家庭科だけでなく、道徳、公民、保健などにまたがっていることがわかっているが、この教科の特性が明らかではない。そのため、詳細に分析することが必要である。また、環境教育に重点をおいている英国の教育を分析し、日本の家庭科教育の「消費生活と環境」の領域の内容の充実に生かすことも必要である。

2. 研究の目的

本研究は、英国の「デザインとテクノロジー (Design & Technology)」及び「PSHE と市民性教育 (Personal, Social & Health Education & Citizenship)」(以下は邦訳で表記する)における環境教育の学習内容と学習方法を詳細に分析し、日本の小・中・高の家庭科における「消費生活と環境」の領域の学習内容と学習方法と比較することを通して、今後の日本の家庭科教育における環境教育のあり方を考察し、提案することを目的としている。

3. 研究の方法

研究方法は以下の通りである。

- (1) 英国の資料・文献の収集及び分析
- (2) 現地調査

- ① 2007年9月に、コルチェスター、イブスウィッチ及びリバプールにおいて、初等学校1校、中等学校5校を訪問し、カリキュラムについてのインタビュー調査と授業参観を行った。また、リバプール・ジョン・ムアーズ大学のジェプソン教授を訪ね、家庭科教員養成カリキュラムについてインタビュー調査を行い、さらに大学の授業参観を行った。
- ② ロンドン市立大学のマーティン・カラル教授(Prof. Martin Caraher)及びアニー・シーリー氏(Ms. Annie Seeley)と、最近の環境教育に関する意見交換をした。また、平成19年度に訪問したデダム小学校を再訪し、授業の観察調査を行い、エコスクール活動について教師にヒヤリングを行

った。また、ロンドン科学博物館と大英博物館に赴き、環境教育プログラムについて調査を行った。

(1)と(2)の分析を日本の家庭科と比較し、考察を行った。

4. 研究成果

主な研究結果を(1)初等学校、(2)中等学校、(3)PSHEにおける環境教育、(4)エコスクール活動、の順に述べる。

(1) 初等学校

D&Tにおいて、教師は、課題を作らせる際に、健康と安全の視点から、環境に配慮しながらふさわしい材料や道具を用い、計画を注意深く行っている。PSHEでは、調査した学校では、環境教育はあまり含まれてはなかった。しかし、ナショナルカリキュラムにおいては、PSHEと他教科との関連について指摘があり、「地理」の内容と関連させて、「地域の環境を改善する方法を議論する機会を提供すること。また、フェアトレード組織、コミックリリーフ(1985年から毎年3月に行われる英国芸能人による慈善企画)、ユニセフなどの目標についても議論すること。」としている。また、学校全体としてエコスクール活動が行われている。これは、英国の特に初等学校全体に広がっている活動である。調査した学校では、学校生活において省エネルギー(電気を計測し変化を評価)、水やゴミの節約、生ゴミのコンポスト化、鳥の巣箱かけ、靴や衣服のリサイクルを進めていた。

(2) 中等学校

① 公立学校 (5校)

PSHEでは市販のテキストを使っているところと、独自の教材を用いているところがあった。毎週決まった時間を設けて行っている学校の他に、学校集会の中で行ったり、学年ごとに年に3日まとめて行っていた学校もあった。市民性教育(Citizenship)は週2回の授業を行っているところもあった。学習方法は、ビデオを用いて様々な学校生活や家庭生活における問題の解決方法について考えたり、議論したりしていた。例えば、「学校とは何のためにあるのか?」という課題について生徒が議論していた。D&Tの授業では、古いシャツにろうけつ染めをして、新しく生まれ変わらせる実習をしていた。リフォームして大切に衣服を使う工夫を教えていた。

② 私立学校 (1校)

私立学校では、ナショナルカリキュラムに従わず、独自の教育がなされている。D&Tは、中学1年生の授業では、木工で車のデザインをする内容であった。また、高校3年生の授

業は、週に35分の授業が7回あり、生徒6名が1年間かけて一つの作品（椅子など）を作っていた。

(3) PSHEにおける環境教育
次に、家庭科の内容や環境教育が多く含まれていたPSHEについて述べる。

表1. PSHEの学習計画 (Alsop High School)

10学年(日本の中3)	週間	11学年(日本の高1)	週間	Sixth Form(日本の高2と高3)
犯罪と罰則遵守	1	犯罪と罰則遵守	1	1 飲酒
責任を持つこと	3	消費者の権利	3	2 喫煙と飲酒
自尊心	2	援助一寄与と貧者	3	3 娯楽部屋の廃止
承認と自由時間	2	興し我が家	2	4 デイズ
追悼の日曜日(11月の第二日曜日に第一次世界大戦の犠牲者を悼む)	1	追悼の日曜日(11月の第二日曜日に第一次世界大戦の犠牲者を悼む)	1	1 地球温暖化
パニック状態にならない方法	2	世界AIDSの日	1	1 海洋汚染
環境	3	試験の準備と修正	1	1 警察
マリリー・キュリー週間(慈善基金への理府)	1	健康な生活	5	5 市民相談所
HIVとAIDS	5	マリリー・キュリー週間(慈善基金への理府)	1	1 あなたの権利と責任
犯罪行為	2	投票と選挙—あなたとあなたの投票	1	1 被災民支援活動
あなたは良き市民ですか?	1	最終段階と対処方法	6	6 罪と裁判
労働経験への準備	4			ボランティアグループ オクスフォード 飢饉 救済委員会 私たちのスポーツ員 校場を殺おう 選挙 政府 地方の財政 民主主義 専制国家 EU EUの法律 国連
				民主主義と政治 11
				家庭生活、消費者、環境(日本の家庭科の内容に近い) 13
				健康と安全 6
				キャリア教育 4
				自立 17

① PSHEには、日本の家庭科の学習内容が含まれており、環境教育が行われている。例えば、A中等学校の10学年～Sixth Formのカリキュラムの中で、日本の家庭科の学習内容に相当するものは、51時間中13時間で、全体の約25%を占めた。その具体的テーマの中に「環境」、「地球温暖化」、「海洋汚染」などの環境教育がある(表1)。この学校では、PSHCEという名称で、PSHEの中に市民性教育を含めていた。そのため、民主主義と政治に関する内容が多く含まれている。

②PSHEの学習方法

例えば、テーマの一つである「環境」についてみると(表2)、3週間配当で、学習目標は、1)環境問題の原因に焦点を当てる、2)リバプール市におけるゴミ収集とリサイクルの実態を探る、3)旅行における環境影響を探る、である。授業の流れは、議論の準備→自由に意見を出し合う(ブレインストーミング)→ポスターのデザイン→ゴミの分析→より美しく安全なリバプール市のための行動計画→クラス調査→旅行者向けリーフレットのデザイン

ン、となっている。期待される学習効果は、1)生徒は、多様な方法を用いながら、地域レベル、国家レベル、地球レベルで環境を向上させる方法の決定に達する、2)生徒は、リサイクルや環境負荷などの諸問題を理解する、となっている。また、この授業では、「地理」の授業との連携も考慮されている。

表2. テーマ「環境」の授業

10学年(日本の中3)	
トピック	環境 - 誰が配慮するのか? (3週間)
目標	・ 環境問題の原因に焦点を当てる。 ・ リバプールにおけるゴミ収集とリサイクルの実態を探る。 ・ 旅行における環境影響を探る。
授業の流れ	議論の準備→自由に意見を出し合う(ブレインストーミング)→ポスターのデザイン→ゴミの分析→より美しく安全なリバプールのための行動計画→クラス調査→旅行者向けリーフレットのデザイン
学習効果	・ 生徒は、多様な方法を用いながら、地域レベル、国家レベル、地球レベルで環境を向上させる方法の決定に達する。 ・ 生徒は、リサイクルや環境負荷などの諸問題を理解する。
資料	教育用小冊子、写真、地理の授業との連携

また、「消費者の権利」や「楽しき我が家」というテーマの日本の家庭科とよく似たテーマの学習においても、授業の中で、様々な生徒中心の学習方法がとられていた(表3)。

表3. 11学年(日本の高1)の「消費者の権利」と「楽しき我が家」の授業

11学年(日本の高1)	
トピック	消費者の権利 (3週間)
目標	私たちの消費者としての権利を考察する。
授業の流れ	生徒は、グループディスカッションに取り組み、消費者の権利というテーマに関するロールプレイを考え出す。
学習効果	生徒は、彼らが消費者として持っている権利について理解する。そして、現実の生活状況においてその権利を適用する方法を理解する。
資料	教育用小冊子、市民相談所の方の訪問

11学年(日本の高1)	
トピック	楽しき我が家 (2週間)
目標	家庭の働きと家を初めて購入する時の諸問題に目を向ける
授業の流れ	グループディスカッション→事例研究→個人別調査
学習効果	生徒は、彼らにとっての家庭の意味を考え、家を買うプロセスを理解する。
資料	教育用小冊子、家庭のカタログ

このように、PSHEにおける学習方法は、調査、ディスカッション、ポスターデザイン、ロールプレイなど生徒中心の方法が多いことが明らかとなった。

また、B中等学校では、PSHEの中で市民性教育を扱っており、市民性教育の割合はA中等学校よりも小さい(表4)。また、50時間中14時間が日本の家庭科の学習内容に相当するもので、全体の約28%を占めた。この学校の学習内容の特徴は、「財務管理」というテーマがあることである。これは、日本の家庭科の家庭経済に似ているが、英国では、日本よりも自立の観点からこのテーマを教えていることが明らかとなった。また、「コミュニティとの関わり」というテーマも多く、生徒が参加しやすいコミュニティ活動が社会の中にも多くあることが明らかとなった。

表4 PSHEの教育計画2007/2008年度(Broughton Hall Catholic High School)

7学年(日本の小6)	8学年(日本の小2)	9学年(日本の中1)	10学年(日本の中2)	11学年(日本の高1)
市民性教育	市民性教育	市民性教育	市民性教育(緑犯罪)	レポート
人権	キャリア教育導入	キャリア/発達ファイル	労働に関連する学習	市民性教育
人間関係1	進路	キャリア/発達ファイル	面接書類1	見直し技術
人間関係2	財務管理	復習への準備	面接書類2	復習への準備
コミュニティとの関わり	コミュニティとの関わり	コミュニティとの関わり	面接の技術と訪問者のプレゼンテーション	スキルに関する行李
グローバルな市民性	地域での市民性	産業界における女性	面接に関する省察	復習に関する省察
文化の多様性	身体障害者への配慮	復習に関する省察	企業の日	実習の修正
復習への準備	復習への準備	省察と評価	復習への準備	授業の完了
企業1	消費者の権利1	財務管理	健康問題	レポート
財務管理	消費者の権利2	赤色の枠で囲まれた警告文	財務管理	授業の完了
復習に関する省察	復習に関する省察	?	復習に関する省察	個人別発表1
健康問題	生徒の意見	レポート	企業一申込	個人別発表2
生徒の意見	健康問題	健康1	生徒の意見	財務管理
麻薬1	麻薬1	健康2	権利と責任	健康問題
麻薬2	麻薬2	?	健康と安全	
省察と評価	省察と評価	個人の安全	準備	
レポート	レポート	キーステージ3の結果	労働経験	

民主主義と政治	9
人間関係、コミュニティ、消費者(日本の家庭科の内容に近い)	9
健康と安全	12
キャリア教育	15
財務管理(日本の家庭科の家庭経済に近い)	5

(4) エコスクール活動

授業以外の環境活動として注目されるのが、初等学校で進められていたエコスクール活動である。英国政府は、2020年までにすべての学校が持続可能な学校になることを目指しており、子ども・学校・家族局は、2006年に持続可能な学校の枠組みを開始した。エコスクールは、環境教育財団によって国際的に運営されている5つの環境教育プログラムのうちの1つであり、世界中の46カ国の4万校以上が参加している。子どもセンター、保育園、初等学校、中等学校、特別学校などが参加している。エコスクールに登録すると、学校は、7つのステップで環境テーマに取り組む。テーマは、ゴミ問題、健康な生活と生物多様性など様々である。子どもたちは、エコ委員会をつくり、活動の推進役となり、計測と監視を行う。活動に応じて、銅賞、銀賞及び最高位のグリーンフラッグ賞の3つの賞が与えられる。銅賞と銀賞は、ウェブ上で適格審査に合格すると得られる賞であり、グリーンフラッグ賞はENCAMS (Environmental Campaigns) の外部評価により得られる賞である。ENCAMSは、環境チャリティーであり、英国をきれいにするキャンペーン(Keep Britain Tidy campaign)を50年以上にわたって行っている。

<まとめと今後の課題>

日本の家庭科では、2009年に新学習指導要領が発表となり、改訂の要点の中で、環境教育の推進のために内容の充実が図られている。科目「家庭基礎」の「ライフスタイルと環境」においては、「生活と環境とのかかわりについて

理解させ、持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする」となっている。学習指導要領解説においては、「個人や家庭だけではなく、地域や企業、行政、国際的な取組など社会全体が一体となった取組や、社会経済システムの見直しなどが必要であり、現在、環境配慮型製品の開発やグリーン購入の推進など様々な取組が進められていることを理解させ、実践への意欲をもたせるようにする。」とある。生徒には、社会全体が一体となった取組や、社会経済システムの見直しの必要性を提案できる力を育成していく必要がある。

日本の家庭科においては、英国のPSHEにおける生徒中心の学習方法を積極的に取り入れ、問題解決学習を一層強化し、提案力の育成をしていくことが必要であろう。

なお、英国のPSHEは、その内容と方法について、学校差が大きいと、今後事例研究を行い、その特徴を明らかにする必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① Rie Imoto, Education for Sustainable Consumption in Home Economics in Japan: Focus on Energy Study, E-book on "Global Sustainable Development: A Challenge for Consumer Citizens" by International Federation for Home Economics, Ref.22, 7pages (CD-ROM), 2008, 査読あり

[学会発表] (計4件)

- ① 井元りえ, 英国のPSHEにおける環境教育の実践, 日本環境教育学会第21回大会, 2010年5月22日, 沖縄県男女共同参画センター
- ② 井元りえ, 英国の家庭科における環境教育の最近の動向, 日本家庭科教育学会, 2009年6月28日, 北海道教育大学札幌校
- ③ 井元りえ, 国際家政学会における「持続可能性と消費」に関する論点, (社)日本家政学会家政学原論部会夏期セミナー, 2008年8月22日, 日本女子大学
- ④ Rie IMOTO, Education for Sustainable Consumption in Home Economics in Japan: Focus on Energy Study, XXI. International Federation for Home Economics World Congress 2008, July 28, 2008, University of Applied Science, Lucerne, Switzerland

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井元 りえ (IMOTO RIE)

福岡工業大学・社会環境学部・教授

研究者番号：30412612